



とうじん丸



つかじい



ロマント君

# 日本最南端の古墳

Ancient Kofun at the southernmost tip of Japan

# 横瀬古墳 Yokose kofun



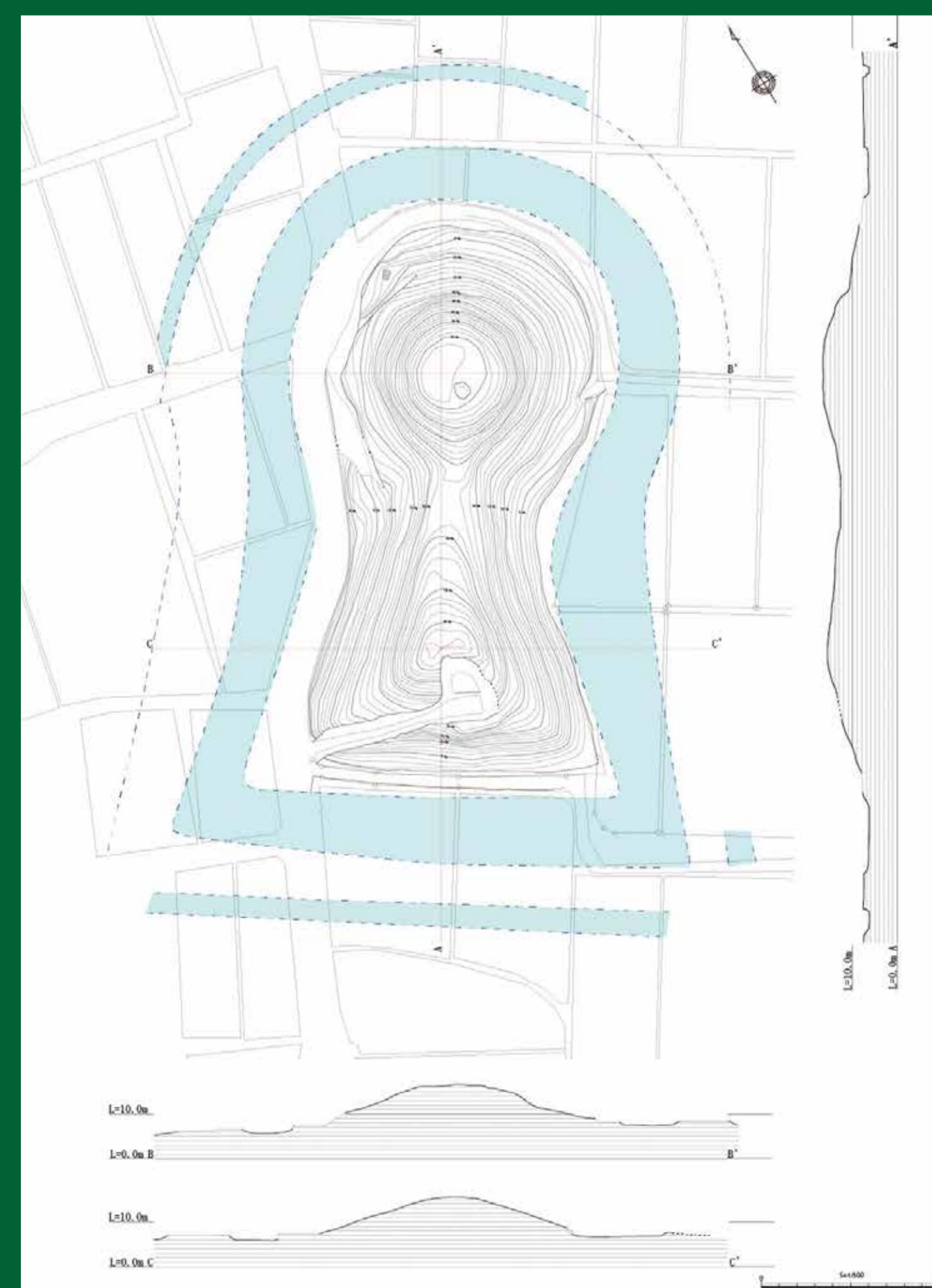
English



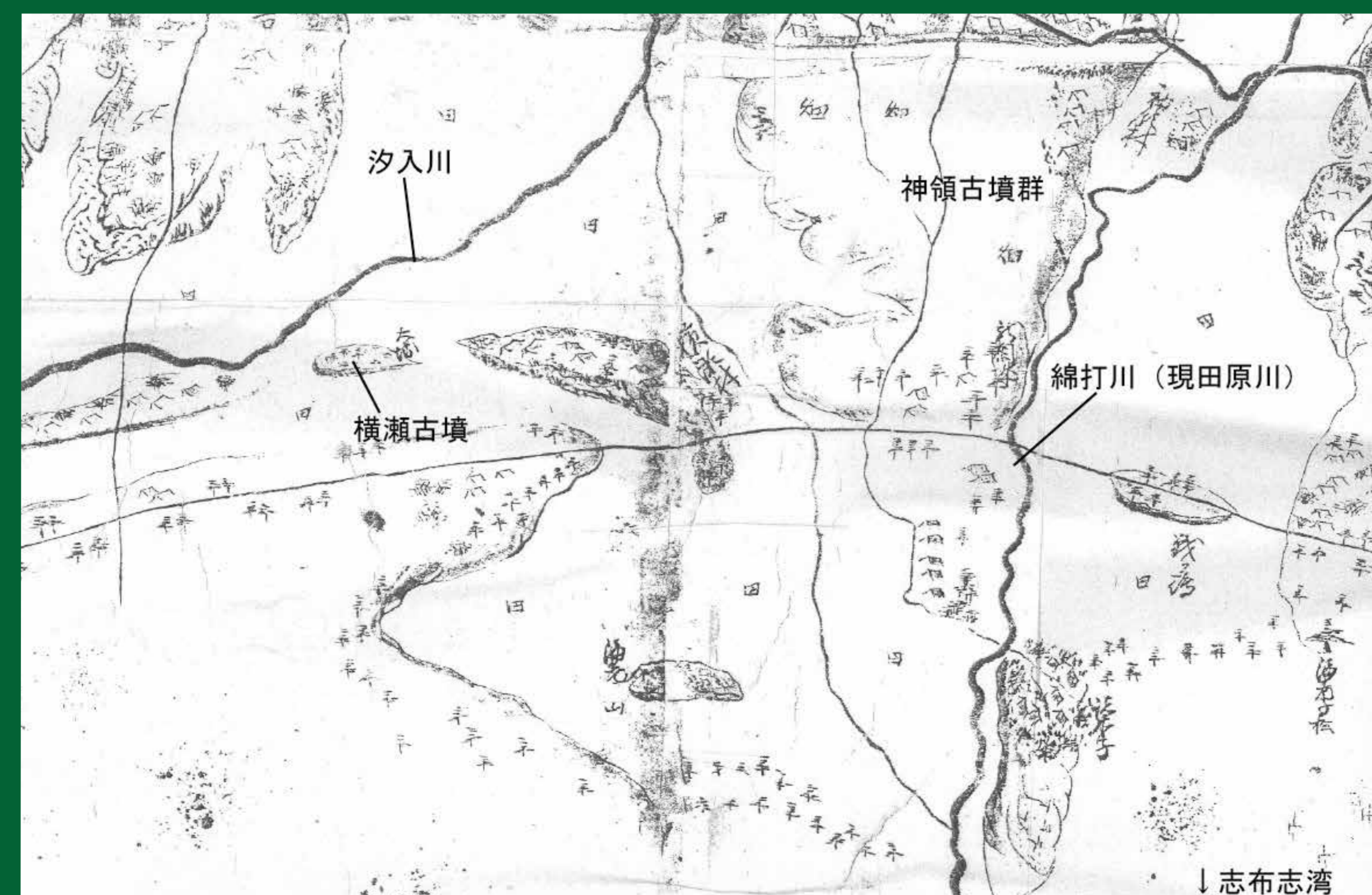
【周濠クroppマーク(植生の違い)】



【周濠ソイルマーク(土壌の違い)】



【測量平面断面図】



【文政7年の周辺地形図】

文政7年(1824年)の江戸時代に編纂された『大崎名勝誌』に、横瀬古墳の様子が記されています。内容「山の上に大きな石棺があります。年号や月日、誰の墓は記されておらず、分かりません、古い焼き物や瓦類が今も崩れることがあります」とあり、これが現存する文献の中で最も古い横瀬古墳の記述です。また「古い焼き物や瓦類」という記述は、墳丘に埴輪や土師器・須恵器が散在していたことがうかがえ、この頃から石室の蓋石が露出していたことがわかります。

横瀬古墳の発掘調査は、昭和52・53年に鹿児島県教育委員会、平成22・23年に大崎町教育委員会の計2回実施しています。いずれも墳丘ではなく周濠の確認を行うための調査です。この発掘調査により、大隅地域の古墳群で初めての発見例となる二重周濠であったことや、周濠の形状が同時期に築造されているヤマト政権の古墳に酷似していることがわかりました。また、周濠から須恵器片が出土している箇所があり、何かしらの儀式を行った場所の可能性があります。築造時期は、出土した遺物から、5世紀半ばまでに築造されていたと考えられています。

横瀬古墳から北側に位置する台地には神領古墳群があります。この古墳群のうち、神領10号墳から盾持人埴輪が出土しており、神領10号墳の築造時期が、横瀬古墳と同時期にあたるため、横瀬古墳にも形象埴輪が存在していたと思われます。

## お問い合わせ

大崎町役場 社会教育課  
☎099-476-1111(代表)



大崎町中央公民館郷土資料展示室

